

良いところを磨き次のステップへ

水上勝山新市長誕生

新人対決となった勝山市長選は、元副市長の水上実喜夫氏が元市議の松村治門氏に1296票差をつけ初当選を果たした。「継承と刷新」を訴えた水上氏を市民は選択した。山岸市政のバトンをどのように発展させ、新しい勝山を創っていくのか注目される。



あいさつする水上実喜夫氏

これで安心して
バトンタッチできる

5期20年務める山岸正裕市長が昨年末、今期限りで引退を表明し、後継指名を受けていた水上実喜夫氏。副市長として7月末までコロナ対策に全精力を注ぎ、支援者が気をもむ中、正式に出馬表明したのは8月になってから。

準備期間が短いですが、自民党県連や公明党県本部、区長会、各種団体から推薦を受けて万全の態勢で選挙戦に臨んだ。水上氏はそれに甘えず、つじ立ちや街頭演説、推薦先への訪問などを繰り返し「継承と刷新」を訴えた。その結果は、投票所が閉鎖